

6. ワークショップ一覧

8月27日(土) 15:00～17:30

| WS番号 | テーマ | リーダー名 | 定員 |
|------|---|--------|----|
| WS-1 | 子どもの心のサインを読みとる –ロバートソン・フィルムを教材にして–その5 | 松原 徹 | 40 |
| WS-2 | デイリーハドルしませんか？ | 宇梶 光大郎 | 20 |
| WS-3 | 外来看護のなかの「気になる場面」や「もやもやしていること」ありませんか？ –倫理的な視点で話しましょう– | 古屋 千晶 | 20 |
| WS-4 | 子どもの貧困に気づき支援するために part6 | 和田 浩 | 20 |
| WS-5 | Baby-Led Weaning (赤ちゃん主導の離乳) を学ぶ | 江田 明日香 | 20 |
| WS-6 | プライマリケアに役立つ漢方薬の使い方 ～思春期の問題について～ | 坂崎 弘美 | 20 |
| WS-7 | 災害対策、どうしてますか | 矢嶋 茂裕 | 20 |
| WS-8 | いかにHidden Concernを引き出すか ～Advocacyの視点から～ | 利根川 尚也 | 20 |
| WS-9 | 労務管理で困っていませんか？ ～あなたの疑問に社労士がズバリお答えします～ | 黒川 美知子 | 30 |

8月28日(日) 9:00～11:30

| WS番号 | テーマ | リーダー名 | 定員 |
|-------|--|--------|----|
| WS-10 | 医業継承・閉院の実際と対処すべき多くの問題点 | 村上 直樹 | 20 |
| WS-11 | 受動喫煙は見える！～子ども達を守るために～ | 野田 隆 | 20 |
| WS-12 | 小児科外来における家族対応を考えよう | 涌水 理恵 | 20 |
| WS-13 | みんなで考えよう！保護者の心に届く伝える力 ～クリニックの強みを最大限いかして～ | 野村 さちい | 20 |
| WS-14 | 授乳と補完食に関するワークショップ2022 | 瀬尾 智子 | 20 |
| WS-15 | 親と子への服薬支援 その6 ～くすりの飲ませ方基本の“き” 飲ませ方のHow-Toを学ぶ～ | 上荷 裕広 | 20 |
| WS-16 | やってみよう プレママ育児講座 | 三田 智子 | 16 |
| WS-17 | 職場をもっと幸せに「みんなで考える人事考課」 | 池澤 千恵子 | 30 |
| WS-18 | 小児科医が行う切れ目のない子育て支援 ～産後ケア、予防接種、健診、病児保育、在宅支援、子ども食堂 等～ | 秋山 千枝子 | 40 |

8月28日(日) 13:00～15:30

| WS番号 | テーマ | リーダー名 | 定員 |
|-------|----------------------------------|-------|----|
| WS-19 | 外来小児科における心理職の活用 | 芦谷 将徳 | 20 |
| WS-20 | ワクチンリテラシー (感染症と予防接種の教育) | 落合 仁 | 15 |
| WS-21 | 小児救急電話相談から学ぶ電話の対応 | 福井 聖子 | 20 |
| WS-22 | 絵カードを用いた発達障害の児への服薬支援 | 松本 康弘 | 20 |
| WS-23 | コロナパンデミックを契機とした一般外来における感染症対策を考える | 松浦 伸郎 | 20 |

| WS-1 | | 子どもの心のサインを読みとる ーロバートソン・フィルムを教材にしてーその5 |
|---|----------------------|--|
| [リーダー] | 松原 徹 (城東こどもクリニック) | |
| [サブリーダー] | 澤田 敬 (NPO 法人カンガルーの会) | |
| | 新津 直樹 (新津小児科) | |
| | 藤田 一郎 (福岡女学院大学) | |
| | 赤平 幸子 (城東こどもクリニック) | |
| <p>5回目となるこのワークショップも今回で最後となります。ロバートソンフィルムとは愛着理論を確立したボウルビィの弟子であるロバートソン夫妻によって1950年代にイギリスで撮影された子どもの発達心理行動の研究のためのフィルムです。そこには2歳前後の子ども達が母親と分離され「自分に何が起きているのか分からない」戸惑いと不安が克明に記録されています。</p> <p>これまで「John」「Lusy」「Jane」「Kate」と視聴してきました。その子ども達はそれぞれが育ちや分離の状況も異なり、それぞれに異なる反応を見せます。ワークショップでは参加者一人一人が子ども達の不安や混乱に共感し、親子の愛着の重要性を理解してきました。今回視聴する「Thomas」は2歳4ヶ月の男児です。両親との分離期間はほんの10日間ですが、再接近期の子どもが抱える葛藤や複雑な心の動きを学べる貴重なフィルムです。</p> <p>トマスは体格の良い元気な男の子でした。人懐っこく、物怖じせず、お話しも上手でした。父親も母親も優しくはじめある子育てをし、トマスの気持ちをよく理解していました。トマスは幼いなりに母親と別れる理由を理解し、受け入れていました。里親家での生活は最初フレンドリーで遠慮しがちな雰囲気でしたが、里親に可愛がりたい気持ちと母親への忠誠心との葛藤で揺れました。里親であるロバートソンさんは人形を使って生まれたばかりの妹のことを説明しますが、その時のトマスはどんな反応を示すでしょう？</p> <p>これまでと同様、まず最初にフィルムを視聴し、その後幾つかのグループに分かれ、子ども達の仕草や表情から参加者それぞれが読み取った子ども達の心理状態や感じたことを話し合います。そして愛着にまつわる病理を理解し、日常の診療や保育、育児支援に大切な心のサインを一緒に再確認しましょう。</p> | | |
| WSのタイプ | 研修型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし |
| 定員 | 40名 | |
| 当日参加 | 可 | |
| 参加費 | なし | |

| WS-2 | | デイリーハドルしませんか？ |
|---|--------------------|---------------|
| [リーダー] | 宇梶 光太郎 (うかじ小児科医院) | |
| [サブリーダー] | 堤 康 (こでまり小児科クリニック) | |
| <p>Daily Huddle とは、毎朝の短い話し合いのことです。私は2019年2月の日本医療安全学会での辰巳陽一先生のご講演を拝聴し、初めてその言葉を知りました。メンバー同士で、思考、志向、価値観を共有するために、毎朝、始業前に行うインフォーマルなミーティングで、メンバー当番制で、自分のこと(自由に、個人的なこと、仕事のこと)を5分程度話し、10分程度意見を言い合う。それにより、メンバーの個人的な背景(ナラティブ)の相互理解を図ることで心理的安全性を目指すための手法で、医療安全の分野でも注目されています。朝の会で話す→医療安全、との短絡思考で、とにかく2019年7月から当院で始めてみました。なんだかんだと2022年3月時点でスタッフが順繰りに話すことは続いています。</p> <p>昨年の学会の熱血リレーでは、「スタッフの話聞いてみたら皆がめだかの姉妹だった件」と題して発表させていただきました。反響があったわけではないのですが、もっと広めたいと思い、仲間を募ることにしました。当院のスタッフで一番プレゼンが下手な私だけでは心もとないの、福岡のメディアを中心に活躍なさっておられるパーソナリティーの今村敦子さん(おススメ上手なのです)のお力をお借りして、聞き方話し方についてのレクチャーを1時間程度していただきまして、その後に参加の皆さんでグループに分かれてハドルする予定です。</p> <p>引込み思案の方でも大丈夫です。是非、参加をご検討ください！</p> <p>(注)「ハドル」とは元々アメフトの試合中にフィールド内で行われる「次はこれで行こう」という短い作戦会議のこのようです。</p> | | |
| WSのタイプ | 研修型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 可 | |
| 参加費 | 1000円 | |

| WS-3 | | 外来看護のなかの「気になる場面」や「もやもやしていること」ありませんか？ －倫理的な視点で話しましょう－ |
|--|----------------------------|---|
| [リーダー] | 古屋 千晶 (順天堂大学 医療看護学部) | |
| [サブリーダー] | 黒田 光恵 (自治医科大学とちぎ子ども医療センター) | |
| | 及川 郁子 (東京家政大学) | |
| <p>現在医療現場では、子どもの立場に立って考える医療がなされています。しかし、親の意向や医療者の状況によって、必ずしも子どもの最善の利益が守られているとは言えないときがあると思います。どう支援していくか子どもと親、医療者それぞれの立場を考えると、正解があるわけではありません。2019年、外来看護師を対象に外来での倫理的配慮について調査しました。看護師は様々な状況で、子どもに寄り添った支援を実践していますが、卒後の倫理教育を受ける機会、倫理について考えたり話し合う機会の有無は、日常ケアの中での倫理実践や倫理的感受性に影響していることが明らかになりました。そこで現在私達は、各施設で継続的な看護倫理の学習会を行う事に取り組んでいます。これまでに、予防接種時のプレパレーション、外来での事故防止対策のテーマでワークショップを開催してきました。各施設で実践できる事故防止に関する学習会の企画書を作成するための知識や方法等を講義し、実際にグループで企画書を作成しました。また、2021年はWeb開催において子どもにかかわる中で気になる場面の動画を参加者が視聴し、倫理的に何が問題であるか意見交換をしました。今回は、外来やクリニックで子どもと家族にかかわる中で気になることや、もやもやしている場面、例えば、子どもは、予防接種に何も知らずにクリニックに連れてこられる、子どもに何も伝えられずに押さえて採血をする等、このような場面をどのように考えてそのもやもやの解決の方向を導きだしていけばよいか、一緒に話し合いたいと思います。最初に動画「気になる場面」の視聴をします。その後、考え方の基礎となる看護倫理について講義等を通して確認し、グループワークをします。グループワークでは外来看護の中で普段感じている気になることや、もやもやしていることについて話し合い最後に今後どのように行動していくか等を共有したいと思います。</p> | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 看護師 |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 不可 | |
| 参加費 | なし | |

| WS-4 | | 子どもの貧困に気づき支援するために part6 |
|---|-----------------|-------------------------|
| [リーダー] | 和田 浩 (健和会病院) | |
| [サブリーダー] | 佐藤 洋一 (和歌山生協病院) | |
| <p>子どもの貧困問題に心を痛め、「何かできることはないか」と考えている医療者は大勢います。しかし、実際には「医療現場では貧困は見えにくい」「貧困に気づいてもどうしたらいいかわからない」という声も多くあります。このワークショップは、そうした「貧困問題初心者」の方を主な対象に、レクチュアや事例検討を通じて「貧困を抱えた親子に気づけるようになる」「気づいた時にどんなことをしたらいいかのヒントがつかめる」ことを目標に開催します。医療現場で、子どもの貧困に気づき、支援するために様々な取り組みが行われており、私たち医療者にできることはたくさんあります。このWSに参加することで、あなたもきっと次の一歩が踏み出せると思います。(このWSは2010年問題解決型WS「子どもの貧困を考える」として始まり、当初は「どうしたら子どもの貧困が見えるようになるか」を中心に考えてきました。様々な経験が蓄積される中で、2016年から主に「初心者」を対象にした研修型WSとして開催しています。もちろん「初心者」でない方の参加も大歓迎です。)</p> | | |
| WSのタイプ | 研修型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加、Web併用 | 制限なし |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 可 | |
| 参加費 | なし | |

8月27日(土) 15:00～17:30

404小会議室

| WS-5 | Baby-Led Weaning (赤ちゃん主導の離乳) を学ぶ | |
|---|----------------------------------|------|
| [リーダー] | 江田 明日香 (かるがも藤沢クリニック) | |
| [サブリーダー] | 山田 翔 (たけのやま歯科) | |
| | 尾形 夏実 (湘南藤沢徳洲会病院) | |
| <p>イギリスで保健師の Gill Rapley とジャーナリストの Tracey Murkett により “Baby-Led Weaning: The Essential Guide to Introducing Solid Foods and Helping Your Baby to Grow Up a Happy and Confident Eater” という書籍が出版されて 14 年、同邦訳版が出版されて 2 年が経過した。</p> <p>Baby-Led Weaning (以下 BLW) は、赤ちゃんが主導する離乳法として国内でも受け入れられ、多くの方が実践するようになってきたが、その本質を理解し支援することができる医療従事者は未だ限られている。開始初期から「固形食」を「手づかみ」で食べるという BLW の考え方が、従来通りの「ピューレ」を「スプーン」で与える従来通りの離乳と大きく異なる方法であるように感じるという声も聞かれる。</p> <p>BLW は、固形食であることや、手づかみすることに本質があるのではない。その名の通り、「赤ちゃんが主導する」ことに真意がある。今回ワークショップを企画させていただく私たちも、その本質を真に理解できたのは書籍の著者である Gill Rapley と Tracey Murkett 両氏によるワークショップを受講したときであったように思う。このワークショップでは、いくつかのワークを通して「赤ちゃん主導」という BLW の根幹概念を学ぶ。小児科外来に携わる皆さんの離乳食支援に役立てていただければ幸いに思う。</p> <p>事前学習として動画閲覧やオンラインミーティングなどの機会を設け、当日はワークを中心に進めたいと考えている。</p> | | |
| WS のタイプ | 研修型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし |
| 定員 | 20 名 | |
| 当日参加 | 可 | |
| 参加費 | 500 円 | |

8月27日(土) 15:00～17:30

405小会議室

| WS-6 | プライマリケアに役立つ漢方薬の使い方～思春期の問題について～ | |
|---|--------------------------------|----|
| [リーダー] | 坂崎 弘美 (さかざきこどもクリニック) | |
| [サブリーダー] | 森 蘭子 (森こどもクリニック) | |
| | 山田 進一 (山田こどもクリニック) | |
| <p>本 WS は、小児プライマリケアの現場において、漢方薬を使用するノウハウを習得することを目的としている。これまで扱った内容はアレルギー疾患、心身症、家族療法、風邪診療などである。前回の令和 3 年は、小児の睡眠の問題を取り上げ、漢方薬の使い方を学んだ。</p> <p>今回は、思春期の様々な問題をテーマに選んだ。思春期は、心も身体も大人へと成長していく過程で、アンバランスな状態にあり、心の辛さが身体症状として現れやすい時期である。漢方医学では「心身一如」と言って、心と身体はひとつのものとして診るという概念があり、思春期の問題に役立つことが多い。</p> <p>思春期に SOS を出してくる身体症状、頭痛、腹痛、倦怠感、めまい、不眠などの様々な不定愁訴に対して、漢方薬の使い方を学ぶ。また、思春期女子の月経関連トラブルに対しても漢方薬は役立つことが多い。あらかじめ、思春期に見られる症状に対して処方することの多い漢方薬について事前学習を行う。また、アンケートを行い、問題点をピックアップしディスカッションできるようにする。当日は、実際の症例に対し、処方選択についてグループ内でディスカッションし発表する。診療現場を想定して、問診、診察方法、西洋医学的疾患の除外などを学べるようにしたい。最終的には、参加者が、自分のレベルに合った漢方薬の使い方を習得し、各々がさらなる学習の継続につながる問題提起や課題を持ち帰ることができることを目標とする。</p> | | |
| WS のタイプ | 研修型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 医師 |
| 定員 | 20 名 | |
| 当日参加 | 不可 | |
| 参加費 | なし | |

| WS-7 | 災害対策、どうしてますか | |
|---|---------------|-------------------|
| [リーダー] | 矢嶋 茂裕 | (矢嶋小児科小児循環器クリニック) |
| [サブリーダー] | 萱場 潤 | (かやば小児科医院) |
| <p>台風、停電、水害などで診療が継続できなくなることがあります。個々の診療所としてはどこまでを想定して災害対策をすべきでしょうか。短時間の停電でもワクチンはダメになるかもしれません。しかし予備電源は費用対効果を考えて選択する必要があるでしょう。みなさんのアイデアを持ち寄って効果的に診療所の機能を維持する方策を考えましょう。さらには大規模災害を想定したアマチュア無線にもチャレンジしてみませんか。</p> | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 不可 | |
| 参加費 | なし | |

| WS-8 | いかにHidden Concernを引き出すか ～ Advocacyの視点から～ | |
|--|--|--------------------------|
| [リーダー] | 利根川尚也 | (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター) |
| [サブリーダー] | 岡本 茂 | (洛和会音羽病院) |
| | 伊藤 健太 | (あいち小児保健医療総合センター) |
| | 小橋 孝介 | (松戸市立総合医療センター) |
| <p>患者や保護者のHidden Concern(うちに秘めた懸念、取り巻く問題など)を、時間の限られた医療面接で全て知ることは至難の業である。患者や保護者自身が、そもそも問題と認識していないことや、問題と認識していても解決する方法が無いと思いついでいることもあるので、心のうちを話してもらうだけではなく、医療者側から引き出す意識が必要である。第30回日本外来小児科学会年次集会ワークショップでは、「保護者への問診スキルアップ～Hidden Concernを引き出す～」を開催した。問診で重要なことは、「数多くある問診技法を網羅することを意識することではなく、問診技法を裏付ける心構えである」ということを、模擬症例を通して学んだ。本ワークショップでは、いよいよ問診技法について着目したい。日本小児科学会が提唱する小児科専門医の医師像の一つに「Advocacy」があり、「子どもや家族の代弁者として、様々な問題を認識し解決にあたること」を到達目標としている。Hidden Concernを引き出すことは、まさにAdvocacyの入り口といえる。本ワークショップのリーダーやサブリーダーも運営スタッフとして関わる「CHAT Child Advocacy Training program」という、小児科専攻医向けのAdvocacyを学ぶプログラムがある。このプログラムでは、「Advocacyを知ること」を目標とし、症例検討を通して、患者情報を4つのカテゴリー「医学的な情報」「患者個人の情報」「家族の情報」「社会的な情報」に分類した後、解決すべき課題の抽出や整理、それらの解決方法を考えながら、Advocacyの多様性を学ぶ。本ワークショップでは、模擬症例の医療面接の実践を通して、この4つのカテゴリーを意識しながらどのようにHidden Concernを引き出していくのかについて、その方法論を学ぶ。</p> | | |
| WSのタイプ | 問題解決型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 不可 | |
| 参加費 | なし | |

8月27日(土) 15:00～17:30

504+505小会議室

| WS-9 | | 労務管理で困っていませんか？ ～あなたの疑問に社労士がズバリお答えします～ | |
|---|---------------|--|--|
| [リーダー] 黒川 美知子 (くろかわみちこ小児科クリニック) [サブリーダー] 高岸 智也 (高岸小児科医院) | | | |
| クリニック経営において悩ましいのが労務管理である。雇用者側の悩みを事前アンケートで絞込み、それについての具体的な解決策を事例をもとにしながら講師にご講演いただく。今回は被雇用者をメンバーに加えずに忌憚のない意見交換ができる場としたい。また、雇用・解雇、休暇の与え方など労働基準法の基本についてもふれていただく予定。 | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加、Web併用 | 経営者(雇用者) | |
| 定員 | 30名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | 3000円 | | |

8月28日(日) 9:00～11:30

401小会議室

| WS-10 | | 医業継承・閉院の実際と対処すべき多くの問題点 | |
|--|---------------------------------|------------------------|--|
| [リーダー] 村上 直樹 (村上こどもクリニック) [サブリーダー] 佐々木 洋 (佐々木歯科) 中瀬 正治 (中瀬小児科) | | | |
| <p>本学会創設期頃には臨床医として佳境にあった会員も、現在は医業の終焉を模索する齢を迎えています。開業医であれば、次世代に継承可能な場合がある一方で、継承が叶わぬ状況ならば閉院せざるを得ません。本ワークショップの責任者3名は継承不可能で、対処すべき多くの課題を抱えながら困難を乗り越えざるを得ない立場にあります。</p> <p>2019年のWS「後継者がいない開業医(医院・診療所・クリニック)の継承問題」では、簡便な解決策であるM&Aにも搾取や業者の選択の問題がある等、継承問題の解決には周到な準備と相当な労力の必要があることを確認しました。</p> <p>そこで本ワークショップでは、若干名のコメンテーターに加わっていただき、問題提起を披露の上、各人各様の困難への対応の実際を披露して戴く予定です。</p> <p>会計、財務、相続など財政上の問題は除外し、具体的な手続きについて検討します。まず個人的な経験から、避けられない項目を洗い出し開示します。</p> <p>廃業のための諸手続先を挙げると；</p> <p>1. 保健所 2. 地方厚生局 3. 税務署 4. 労働基準監督署・ハローワーク 5. 医師・歯科医師国保・社会保険事務所 6. 医師会・歯科医師会・B会員資格 7. 小規模企業共済などとなります。また、どの職種の国家資格を持つ事務職へ提出書類を依頼すべきかについて、判明した範囲で記します。簡単な原則は、提出書類の所轄官庁によって法律で規定されており、省庁をまたぐ書類作成は違法と見做されることです。都道府県や市町村の役所への書類は行政書士、登記などの法務局で申請する書類は司法書士、税金など金銭に関する税務署関連の書類は公認会計士、税理士です。雇用保険をはじめとする労務関係は、厚生労働省所轄の公共職業安定所、労働基準監督署に提出する書類は社会保険労務士となります。以上の点を踏まえて、WS参加の皆様との忌憚のない質疑応答をしたいと希望しています。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 医師およびその配偶者 | |
| 定員 | 20名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | 2000円(テキスト込み) または500円(テキスト無) | | |

| WS-11 | | 受動喫煙は見える！～子ども達を守るために～ | |
|---|---------------|-----------------------|------|
| [リーダー] 野田 隆 (のだ小児科医院) [サブリーダー] 伊藤 裕子 (伊藤内科医院) | | | |
| <p>喫煙は喫煙者が能動的に吸う能動喫煙による使用者本人への影響だけでなく、喫煙者が排出したタバコの煙を非喫煙者が否応なしに吸い込んでしまう受動喫煙による他者への影響があります。受動喫煙はさらに喫煙者の姿が目視される直接受動喫煙と誰が排出したタバコ煙かは、分からずに吸い込んでしまう間接受動喫煙に分けられます。英語で表現すると Firsthand Smoking (能動喫煙)、Secondhand Smoking (直接受動喫煙)、Thirdhand Smoking (間接受動喫煙) です。近年ニコチンの代謝産物であるコチニンを計測することで、受動喫煙の見える化が進んできました。しかし、タバコの害は量依存的ではありません。加熱式たばこの宣伝のように、有害物質が90%減少しているから健康被害も90%減少するというわけではありません。同様に測定値が検出限界以下だから健康被害も起こらないとは言えないのです。本ワークショップでは、受動喫煙についての分かり易い総論をしたのち、受動喫煙の害を喫煙者に伝えるばかりでなくタバコを吸わない生活のすばらしさについても議論し、外来を訪れる喫煙者の性格を4つのパターンに分類して、どう声掛け支援をしていくかを実践するワークを行います。なんの予備知識もない人大歓迎です。家族や子どもにもできる禁煙支援を目指します。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | | 制限なし |
| 定員 | 20人 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

| WS-12 | | 小児科外来における家族対応を考えよう | |
|--|---------------|--------------------|------|
| [リーダー] 涌水 理恵 (筑波大学) [サブリーダー] 原田 慶子 (FIRST CLASS CAREER LAB) | | | |
| <p>小児科外来における家族対応を参加者全員でディスカッションし、討論する場を設ける目的で、今回ワークショップを企画した。2019年に日本全国で収集した実態調査から洗い出した代表的な4事例(事例1:感冒症状と喘鳴を伴う1歳半幼児に付き添った父親による暴言、事例2:予防接種を受ける小1男児からの暴力、事例3:待合室で落ち着きのない4歳男児と注意をしない母親、事例4:朝から嘔吐を繰り返す幼児を抱えた祖母からのハラスメントクレーム)について討論する予定である。1)このような状況になったのはなぜか、2)未然に防ぐために必要なことはなにか、3)既に状況が発生してしまったら、どのような対応をすればよいかについて4つの事例ごとに討論を行った後、望ましい対応の在り方についても参加者間で話し合ってもらい、具体的なイメージを共有できるよう登場人物のキャストイングを行って、参加者の中でロールプレイを実施・披露する。トラブル対応で傷ついたスタッフに対するピアフォローなどについての意見交換も行う。</p> <p>参加者にはアンケートでWS内容の満足度とWS評価、WS内容を今後の業務に活かそうかについての自由記載を依頼します。</p> <p>本WSは、現実に起こりうる日常診療での家族対応について心構えができるようなWSになっております。職種は問いません。皆様のご参加をお待ちしています。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | | 制限なし |
| 定員 | 20名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

8月28日(日) 9:00～11:30

404小会議室

| WS-13 | | みんなで考えよう！保護者の心に届く伝える力 ～クリニックの強みを最大限いかして～ | |
|--|--------------|---|--|
| [リーダー] 野村 さちい (一般社団法人 つながるひろがる子どもの救急) [サブリーダー] 鈴木 研史 (竜美ヶ丘小児科) 尾崎 幸代 (竜美ヶ丘小児科) | | | |
| <p>クリニックの看護師や事務スタッフは保護者に情報を伝える機会が多くある。予防接種のスケジュールや、ホームケア指導など内容は些細なものから重要なものまで多岐にわたる。それに加え、この数年は新型コロナウイルス感染症への対応で、診療の受付方法やそれに伴う留意点などさらに伝える機会は増えている。時には保護者に対して、「ちゃんと伝えたのに、なんで伝わってないの?」、「なんか怒っている?」、「前にも同じ説明したのに」、などネガティブな感情を抱くこともあるのではないかと。</p> <p>本ワークショップでは、単に“言った、話した”ではなく、誤解なく保護者が理解し、行動できるように伝えていくためにどうしたらよいかを学ぶ機会としたい。</p> <p>よくあるクリニックでの事例をもとに、ロールプレイを行い、自身の伝え方や陥りやすい傾向を見つける機会としたい。またディスカッションを通し明日から使える伝え方を習得できることを目標とする。</p> <p>グループワークでは同じ職種同士で交流し、日頃の悩みや疑問を積極的に話し合う時間を取り入れながら有意義な時間としたい。</p> <p>クリニックの看護師の方、事務スタッフの方、保護者に届く伝え方を一緒に楽しく学びましょう。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型ワークショップ | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 看護師、事務スタッフ | |
| 定員 | 20名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

8月28日(日) 9:00～11:30

405小会議室

| WS-14 | | 授乳と補完食に関するワークショップ2022 | |
|---|---------------|--|--|
| [リーダー] 瀬尾 智子 (緑の森こどもクリニック) [サブリーダー] 岡田 清春 (おかだ小児科医院) 江田 明日香 (かるがも藤沢クリニック) | | | |
| <p>乳幼児の栄養は成長発達の基礎です。小児科診療の場では、養育者から乳幼児の授乳や補完食について尋ねられることがしばしばあります。しかし、臨床家が拠り所にできる科学的かつ実践的で、商業的な影響を受けていない適切な情報はまだまだ少ないのが現状です。2017年の年次集会で始まった「離乳食を科学的に語ろう!」というワークショップを皮切りに、SIG、シンポジウムとディスカッションの場をこれまで重ねてきました。</p> <p>今回は「授乳と補完食に関する検討会」が発足したことを踏まえて、原点に戻ってワークショップを開催します。はじめに、歯科医師の視点からの「乳幼児の食行動の発達」について話を聞きます。その後、持ち寄りケースに関するディスカッションを行います。参加者が経験したケースから、授乳と補完食に対する支援のヒントを探ります。</p> <p>「授乳と補完食に関する検討会」のミッションは、様々な情報を批判的に吟味し、小児科診療の場で役に立つ情報を発信することです。今回は「上から目線」の情報ではなく、現場から上がってくる疑問や実践報告を聞き、どのような情報が必要とされているかを明らかにして、今後の活動に役立てます。</p> <p>ワークショップ参加者は1施設2名までとし、原則、会場参加とします。ケース提示を希望する方は、あらかじめワークショップ・リーダーにお知らせください。(発表は必須ではありません) 参加対象は、医師・歯科医師ですが、同一施設からの参加者(他職種)はもう1名可です。(1施設からは医師・歯科医師を含め2名まで)</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 医師・歯科医師および、同一施設からの参加者はもう1名可。(1施設からは医師・歯科医師を含め2名まで) | |
| 定員 | 20名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

8月28日(日) 9:00～11:30

406小会議室

| WS-15 | | 親と子への服薬支援 その6 ～くすりの飲ませ方基本の“き” 飲ませ方のHow-Toを学ぶ～ | |
|--|---------------|--|----------------------------|
| [リーダー] | 上荷 裕広 | (すずらん調剤薬局) | |
| [サブリーダー] | 仙敷 義和 | (信栄調剤薬局) | |
| | 齋藤 栄二 | (あおば薬局) | |
| | 三浦 哲也 | (三浦薬局) | |
| <p>小児科外来において服薬を拒む患児への対応は、小児科医療に携わる私たちにとっては不変の課題である。小児への薬の飲ませ方については、当学会にて25年以上前からテーマを変えながらワークショップにて取り組んできたが、ここ5年間は基本的な飲ませ方よりも、経験者のさらなるスキルアップを目指してアドバンス型のワークショップとして、服薬を嫌がった時の親と子への指導や支援を中心に、アセスメントや動機づけ、カウンセリングなど高度な手法を考えることを主として行ってきた。</p> <p>そこで今回は、小児への薬の飲ませ方についての基本を見直し、参加者の新たな経験を取り入れながら一緒に学んでいただけるWSを開催したい。小児科クリニックや処方箋を応需する薬局に勤務して勤務経験が浅い方(3年未満)を対象に、飲ませ方について疑問に答えると共に、今まで私たちが培ってきた飲ませ方のHow-Toや保護者への指導方法など、テクニックを中心とした手法を研修型のWSにて学んでいただき、明日からの診療に役立つスキルを獲得していただくことを目指したい。また当学会WS発信となる、簡単な小児への服薬指導ガイドライン基本編をプロダクトとして作成したい。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加、Web併用 | | 所属施設での勤務経験が3年未満 職種は制限なし |
| 定員 | 20名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

8月28日(日) 9:00～11:30

407小会議室

| WS-16 | | やってみよう プレママ育児講座 | |
|---|--------------|-----------------|---|
| [リーダー] | 三田 智子 | (パルモこども診療所) | |
| [サブリーダー] | 堀場 映子 | (松野こどもクリニック) | |
| | 村山 恵子 | (げんきこどもクリニック) | |
| <p>初産妊婦さんの最大の関心事は自身のお産で産後の赤ちゃんとの暮らしのイメージは漠然としています。産後はよく泣く赤ちゃんに戸惑い悩み気持ちが暗くなってしまうことも珍しくありません。1か月健診で出会う新米ママが生き生きとして欲しい、そんな思いで静岡市小児科医会は行政との協働で10年余り前からプレママ育児講座を行ってきました。元々は各地で同様の活動を行っている小児科医と情報交換しスキルアップを図りたいという目的でWSを立ち上げましたが、昨年のWSでは行政との協働方式は少なく、クリニック単位での講座を目指す方が現実的な地域が多いことも分かりました。今回は行政と協働方式とクリニック単位の二つの方式でそれぞれの実施にはどのような手立てや準備が必要か、実現への障害は何かを話し合います。講座の目的とお伝えする内容など具体的な事柄を検討しプロダクトを作り最初の育児支援の実践となる事を目指します。withコロナのいまは妊産婦や慣れない子育て中の親の孤立は深刻です。こんな時だからこそ子育ての最初期を支える取り組み、新米ママが赤ちゃんのお世話に向き合いふれあうことに喜びを感じ、安心して過ごすサポートとしてプレママ育児講座の輪を広げたいと考えております。この取り組みにご賛同いただける多職種の皆様の参加をお待ちしております。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型ワークショップ | | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | | 制限なし プレママ育児講座を实践したい方、プレママ育児講座に興味を持たれた方 |
| 定員 | 16名 | | |
| 当日参加 | 不可 | | |
| 参加費 | なし | | |

| WS-17 | | 職場をもっと幸せに「みんなで考える人事考課」 | |
|---|--------|------------------------|--|
| [リーダー] 池澤 千恵子 (いけざわこどもクリニック) [サブリーダー] 辻 真弓 (辻医院) 池澤 真子 (いけざわこどもクリニック) | | | |
| <p>開業医は、また職場における役職者は、職員への望みや理想を持っていると考える。「ここさえ直してくれたら」「もっとこうして欲しい」その気持ちは職員に正しく伝わっているだろうか。また職員が自ら人事考課を作るとしたら職員はどんな評価を望むだろう。それぞれの施設の人事考課をシェアし合い、もっと成長できるより良い職場作りを目指す。</p> <p>また多種多様なダイバーシティの時代において、人事考課で気をつけるべきはどんなことだろう。</p> <p>進め方</p> <p>① 医師(経営側)と職員の人数をバランスよく配置しグループを作る。5人x6</p> <p>② 人事考課を実際に行なっている施設をバランスよく配置する。</p> <p>③ 人事考課を行なっている施設に、行う時期、その行い方、面談時間や方法についてパワポを使用し発表していただく。発表している間、一人一人がチャットのように付箋で疑問や意見、あれば問題点を書く(5施設ほど集めたい)1時間</p> <p>④ 付箋の記録をもとに問題点をグループで話し合う。現場で働く職員は自分達のどこを評価して欲しいのか、実際に人事考課に反映できる項目があるかも検討する。</p> <p>⑤ グループごとに発表しそれぞれの施設の人事考課の参考にする。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型 | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 院長、看護師長、主任など役職者 | |
| 定員 | 30名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

| WS-18 | | 小児科医が行う切れ目のない子育て支援 ～産後ケア、予防接種、健診、病児保育、在宅支援、子ども食堂 等～ | |
|--|---------------|--|--|
| [リーダー] 秋山 千枝子 (あきやま子どもクリニック) [サブリーダー] 三平 元 (ひがしまつど小児科) 松下 亨 (松下こどもクリニック) 佐藤 好範 (さとう小児科医院) 金子 淳子 (金子小児科) | | | |
| <p>2020年より始まった新型コロナウイルス感染症の流行により、私たち小児科診療は大きな変化を余儀なくされました。感染症は激減し、受診が減り経営を圧迫しました。しかしながら、コロナ禍で窮屈な思いをしている親子に対し、小児科診療の役割を再認識することになりました。その役割とは、これまで一般診療と共に培ってきた子育て支援です。先人たちの小児科診療ならではの子育て支援の取組が数多くあります。本WSでは、小児科診療が行う子育て支援を集め、そして共有し、各地に広げていくことを目的にしたいと思えます。もちろん、紹介する子育て支援の全部が一人でできるわけではなく、その地域や診療所、人材によって様々な取り組み方があることでしょう。もちろん、今回集まる子育て支援は小児科医としていつも行ってほしい子育て支援と、またその人ならではの特徴ある子育て支援が混在するかもしれませんが、小児科診療における子育て支援の技術の底上げになることは間違いないと確信します。</p> <p>今回、子育て支援として取り上げる事業は下記の6つです。</p> <p>① 産後ケア事業(担当:秋山千枝子) ② 予防接種の場面における子育て支援(担当:三平元) ③ 乳幼児健診の場面における子育て支援(担当:松下亨) ④ 病児保育(担当:佐藤好範) ⑤ 在宅支援・児童発達支援事業(担当:宮田章子) ⑥ 子ども食堂(担当:金子淳子)</p> <p>実際に取り組んでいる方の子育て支援に資する相談対応、必要な情報の提供及び助言、関連機関との連携などの情報交換や、これから取り組みたい方の情報収集や相談の場となり、WS後も交流や相談できる体制ができればと考えています。奮ってご参加ください。</p> <p>これまでの医療は疾患主体でしたが、これからは精神的及び社会的な面にも目を向けていく必要があります。子育て支援はその機会となりえ、これからさらに小児科診療の大きな柱となっていくものと思われます。</p> | | | |
| WSのタイプ | 問題解決型と研修型の混合型 | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加、Web併用 | 制限なし | |
| 定員 | 40名 | | |
| 当日参加 | 可 | | |
| 参加費 | なし | | |

| WS-19 | 外来小児科における心理職の活用 | |
|---|-----------------|------|
| [リーダー] 芦谷 将徳 (福岡大学) [サブリーダー] シャルマ紗花 (福岡大学筑紫病院) | | |
| <p>近年、外来小児科や心理職を取り巻く状況に変化が起きています。2015年に公認心理師法が成立し、公認心理師という国家資格が誕生しました。2018年の診療報酬の改訂では、「小児特定疾患カウンセリング料」の算定が可能となるなど、外来小児科における心理職が少しずつ求められてきていると考えられます。加えて、昨今の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、診療体制や心理職の活動へ与える影響も大きかったのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、外来小児科における心理職は数が少ないため、個々の職場で様々な工夫をしながら業務にあたっており、心理職同士でその工夫の共有も難しい状況の中で活動していると推測されます。</p> <p>そこで、本ワークショップでは、公認心理師や臨床心理士、臨床発達心理士などの職種を「心理職」として捉え、外来小児科における心理職の業務や役割の現状の共有、ニーズや課題について参加者と考えて参ります。具体的には、「外来小児科における心理職の取扱説明書」の作成を目指します。業務や役割、課題等について事前アンケートを行い、ワークショップ当日にはグループワーク、全体へのシェアリングを通して、心理職の業務や役割についてより良く知ってもらえるような「取扱説明書」を作成したいと考えています。</p> <p>また、心理職について関心はあるが知る場が少ないというクリニックの方々や、心理職を雇用されていないクリニックの方々にもご参加いただき、心理職について知っていただくと共に診療場面での心理職のニーズについてご意見を頂けたらと思います。コロナ禍における苦労や工夫についても、参加者の皆様と共有しながら進める予定です。</p> | | |
| WSのタイプ | 問題解決型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 可 | |
| 参加費 | なし | |

| WS-20 | ワクチンリテラシー(感染症と予防接種の教育) | |
|--|------------------------|----|
| [リーダー] 落合 仁 (落合小児科医院、日本外来小児科学会予防接種委員会) [サブリーダー] 中村 豊 (ゆたかこどもクリニック、日本外来小児科学会予防接種委員会) | | |
| <p>コロナ禍の今、感染症ということばを身近に耳にすることが多くなりました。受診控えから予防接種控えも問題になっています。この時期こそ感染症、予防接種を正しく理解する時期と考えます。会員の皆様は日頃からワクチン接種の啓発を母子保健、小児保健それぞれの立場で実践されていると思われます。日本外来小児科学会の予防接種委員会では過去に小中学校の保健教育の教科書で感染症と予防接種に関する記述がほとんどないことを確認しました。今後、地域の次世代を担う子どもたちに正確な情報を伝えることが子どもたちの健康を守ることに結びつくと考えます。委員会では予防接種を考えるきっかけとなる教材を作成、現在、普及にむけ努力しております。今回のWSでもご紹介申し上げます。併せて、学会会員の方々が実践しておられる養育者への啓発と子どもたちに予防接種の基本である個人を守り集団を守り次の世代を守る、また、予防接種を受けられない人を感染症から守るということを伝えるため、感染症の予防の重要なツールの一つである予防接種に関して子どもたちに考えてもらう上での課題を皆さんと考えていきたいと思っております。</p> <p>注：令和4年3月現在小児のコロナワクチンに関して小児科医の中でも意見の隔たりがあり今回話題にあげない予定です。</p> | | |
| WSのタイプ | 問題解決型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加、Web併用 | 医師 |
| 定員 | 15名 | |
| 当日参加 | 可 | |
| 参加費 | なし | |

| WS-21 | | 小児救急電話相談から学ぶ電話の対応 | |
|--|------------|-------------------|--|
| [リーダー] 福井 聖子 (NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク) [サブリーダー] 宮下 佳代子 (大阪市立大学大学院看護学研究科) | | | |
| <p>近年 WEB 問診システムの導入なども進んでいるようで、電話は相談希望の使用に限られてくる日も近いのではないかと思います。一方現状として、WEB システムを導入されていないクリニックでは、COVID-19 感染を受けてまず電話を選択する保護者が増えていると考えられます。予め受診予約と相談を振り分けるようにしていない場合、電話では会話が始まらないと単なる問い合わせか相談かわかりません。相談も内容はさまざま、受診患者の保護者でも、声だけの対応に戸惑うことはよくあるのではないのでしょうか。</p> <p>保護者もスタッフも日常的に電話を利用する頻度が減り、電話での会話を不得手とする人も増えた印象があります。WS では、電話を介する会話と顔の見える会話の印象の違いを体験し、電話の会話の注意点を学ぶと共に、保護者の立場に立って話をよく聴くことの大事さとスキルを考えます。また、クリニックの方針を整理して共有することも電話対応に際して重要なポイントになります。</p> <p>電話の対応がスムーズになるとクリニックのイメージアップにもなり、聴き取った内容は保護者への指導の一環として重要な役割を果たすなど、日常診療にも良い影響を及ぼします。</p> <p>昨年度はオンラインで開催したため、参加者同士の意見交換を通して考えるスタイルを取れなかったのですが、今年はグループワークで意見交換するなかで、視野を広げ、自ら語ることで学びにつなげる予定です。</p> | | | |
| WS のタイプ | 研修型ワークショップ | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加のみ | 制限なし | |
| 定員 | 20 名 | | |
| 当日参加 | 不可 | | |
| 参加費 | 1500 円 | | |

| WS-22 | | 絵カードを用いた発達障害の児への服薬支援 | |
|---|--------------|--------------------------|--|
| [リーダー] 松本 康弘 (ワタナベ薬局上宮永店) [サブリーダー] 木下 博子 (大分こども病院) 金原 洋治 (かねはら小児科) | | | |
| <p>発達障害を持つ児は医療現場において様々なトラブルを起こす。特に、薬物治療を行う際、服薬を拒否したり、抵抗することがみられる。一度、服薬拒否すると、その後も薬を服用できないことがあり、保護者の悩みの種となっている。発達障害児の服薬拒否に対して、食物への混ぜ合わせの様な服薬指導では困難な場合が多く、より児の性格に対応した指導が必要となる。</p> <p>発達障害、特に自閉症スペクトラムの児は視覚優位のため、話し言葉という情報を取り込むことが苦手で、表情やニュアンスの読み取りに課題がある。話し言葉よりも文字や写真などの視覚的な情報の方が取り込みやすい傾向にあるため、自閉症の児に指導する場合は絵カードや写真を用いて「構造化」することで何をするかを分かりやすくすることができる。このことを踏まえて、第 29 回日本外来小児科学会年次集会のワークショップで、服薬支援のための絵カードを作成した。今回のワークショップではこの絵カードを用いて、実際の医療現場で発達障害の児の服薬支援を行い、有用性を検証するとともに、さらなる改良を心がけたい。</p> <p>なお、前回の年次集会はコロナのため開催できなかったが、今回は Zoom でも対応できるように準備するとともに、これまで WS で作成に協力して頂いた方にも絵カードを送り感想を集める。</p> | | | |
| WS のタイプ | 問題解決型ワークショップ | 対象 | |
| 開催形式 | 会場参加、Web 併用 | 医師、薬剤師、看護師、 保育士、臨床心理士 | |
| 定員 | 20 名 | | |
| 当日参加 | 不可 | | |
| 参加費 | なし | | |

| WS-23 | コロナパンデミックを契機とした一般外来における 感染症対策を考える | |
|---|--------------------------------------|----|
| [リーダー] 松浦 伸郎 (松浦医院) [サブリーダー] 川島 崇 (川島内科クリニック) 熊谷 直樹 (くまがいこどもクリニック) | | |
| <p>一昨年前から始まったコロナパンデミックを契機として感染症に対する対策がいろいろ考えられているが、実際様々な場面でどのような感染対策をとったらよいか悩む場合も少なくない。今回のWSでは一般外来において、予防接種や健康診断の際、そして乳幼児と大人が一緒になるとき、発熱外来の最中に急患が来たとき、そして濃厚接触者に対する対策、どのような順に患者さんを見ていくかなど戸惑う場合も多い。外来だけでなく集団接種や集団健診など多くの人が集まるところ、また学校の健診など、どのようなやり方がいいのか、多くの異なった意見が出されることも少なくない。今回一般外来をするにあたり、保険証の確認、検査の説明、検体採取、投薬、会計などに加え待合室の在り方、診察室、処置室、隔離室などの動線をどうすればよいか、そして発熱者の待合室や外での隔離方法、多数の発熱者が来院された場合にそれぞれの方をどのように隔離し待ってもらえるかなど状況によって多くの問題が発生する。診察の優先順位、また狭い場所をどのように使い分けるか。自分たちのこれまでの経験を出し合い、今後パンデミックが収まった後でも役に立つ感染対策の方法を考えてみたい。</p> | | |
| WSのタイプ | 問題解決型ワークショップ | 対象 |
| 開催形式 | 会場参加、Web併用 | 医師 |
| 定員 | 20名 | |
| 当日参加 | 不可 | |
| 参加費 | なし | |